

〈Research Report in Northeast
China〉 Landscape transformation of the
northeast region due to economic growth in
China: Maintenance of nature reserves, Grazing
industry and commercial markets

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩動, 志乃夫 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/24072 |

〈中国東北部調査報告〉

中国の経済成長による東北部の景観変容

—— 自然保護区の整備・牧畜産業・商業市場を中心にして ——

岩 動 志乃夫

東北学院大学教養学部地域構想学科

I. はじめに

1978年の改革開放政策以降、中国の経済は急成長し、近年のハイテク化、都市化、高速交通網の急激な発展と拡大は、大規模な地域変容をもたらした、それは同国東北部にも及んでいる（白，2003；楊，2003；藤田，2007）。岩動（2017）は、この都市化について長春市やハルビン市を事例に市街地中心部の新旧居住地の変化や古い建造物保存と街並整備の現状について報告した。一方で地域経済格差も大きく拡大し、その是正が課題とされている（平田，2007）。岩動（2017）は、吉林省のリゾート地として整備が進む長白山麓の観光開発を取り上げ、地元住民の雇用が経済的収入の増加と同時に食生活の一部向上にもつながることを指摘した。

都市やリゾート地域が、大きく変容する一方で、経済成長による自然保護や土地利用の修正も始まっている。例えば自然回復の「退耕還林事業」、過放牧防止の「退牧還草政策」の実施である（丸山，2002；阿拉，2009）。

本稿では経済成長が著しい中国の特に縁辺地域に着目して、自然環境保護や農業政策に関する展開を追いながら、その地域変容について取り上げる。吉林省と内蒙古自治区での自然林保護に配慮する森林公園内の設備や運営の実態を探り、牧草管理による牧畜地域の機能変化について触れ、合わせて近代化する食生活に対応した卸売・小売市場の機能について考察することを目的とする。筆者は2018年8月25日から9月2日にかけて中国の遼寧省、吉林省と内蒙古自治区を訪れ、大連市、アル山市、ウランホト市、吉林市を巡った（図1）。



図1 中国国内訪問先と調査地域

アル山国家森林公园での観察、ウランホト市からアル山市周辺の放牧地帯や吉林市松北二区市場、大連市双興商品城・大菜市场で観察と聞き取りを行った。

II. 中国の森林公園の展開

1. 森林公園の設立と特性

中国における2014年の森林面積被覆率は、21.6%ときわめて少ない¹⁾。かつてこの面積比率を低下させた時期があったが、近年ではわずかながら増加に転じている。この被覆率が低い同国にあって、東北部は大シアンリン山脈、小シアンリン山脈、長白山地帯を擁し、森林資源に恵まれた地域である。

最初に中国の自然認識と自然保護の経緯をふり返る。古い自然思想は、孔子の「自然と人間の融和」（金谷，1997）、老子と荘子の「自然と人間の対立」、董仲舒の「人間による自然の支配」があり、古来より人間が自然を支配する思想が読み取れる（金

谷, 1997; 羅, 2001)。

戦後, 旧ソ連の政策を参考にして, 1956年に中国の自然保護区制度が始まった(毛里, 1989)²⁾。その後, 大躍進政策による環境汚染と生態系破壊が進み, 鄭(1994)によれば, 65年の自然保護区は19か所, 面積64.9万ha, 国土の0.07%に過ぎなかった。この時期の自然保護区は, 加工用天然林の保護と希少野生動植物の保護を目的とし, 自然景観保存と農林牧畜業の奨励も兼ねていた。60年代後半になると農業振興による自然環境破壊が進んだ。しかし72年ストックホルム国連人間環境会議をきっかけに保護政策が見直され, 78年の自然保護区は34か所に増加したものの, 国土の0.13%に過ぎなかった(鄭, 1994)。

その後, 市場経済導入により, 経済成長が急進展した。この頃ユネスコによる生物圏保存地域が設置され, 79年から自然と人類の共存をめざす自然保護区管理制度が始まった³⁾。89年の自然保護区は, 573か所, 国土の2.58%を占めている(娜, 2006)。この頃は環境汚染と自然破壊の課題を抱えながらも, 国際的環境保護運動の影響を受け, 娜(2006)によれば, 自然保護区は, 住民参加型へ移行していった。

田口(2007)によれば, 現在の自然保護区は, 森林や草原の保護を目的に一元管理され⁴⁾, 重要度に応じて国家級自然保護区と地方級自然保護区に分類される⁵⁾。その対象は代表的な生態系や絶滅の危機に瀕する希少な野生動物の生息域, 特別な意義を有する自然遺産等とされる。森林公園は自然保護区と同様にその知名度に応じて, 国家級, 省級, 市または県級の3段階に分類される(田口, 2007)⁶⁾。

森林公園経営管理機構は, 公園内での営業や開発行為の権限を有し, 入山料や貸付料等を徴収できる。また植樹造林, 森林防火, 森林病虫害駆除, および野生動植物等自然資源の保護も兼ねている。さらに第三者による営業行為や入山料の徴収は, 自然保護・管理を目的に, 費用を経済行為に依存し, 地元経済にも還元し, 住民との調和も図りながら, 自然保護と経済発展の調和をめざし

ている(田口, 2007)⁷⁾。保護区はそこに就業する住民にとって, 貴重な雇用先となっている。

1990年代に入ると資源保護から自然保護へと転換し, 90年代末には自然回復を目的とした「退耕還林還草事業」が開始された(丸山, 2002)。天然林保護, 野生動植物保護, および自然保護区設置が本格化し, 生態系の回復が図られた。2003年の自然保護区は, 1,999か所, 国土の14.4%を占めている(娜, 2006)。

99年から観光振興を目的に, エコツーリズムが始まった(韓ほか, 1998)。これは保護区で管理資金を集め, 住民の経済的利益の確保, 国民の自然環境意識の向上を目的にしている。胡ほか(2007)は, エコツーリズム導入後に, 住民の収入が増加したものの, 自然環境と伝統文化への悪影響や保護不足等の諸課題をあげ, 自然環境と社会経済のバランスに配慮することが必要と指摘する。2014年の自然保護区は, 2,729か所, 面積14,699万ha, 国土の15.3%である⁸⁾。そのうち内蒙古自治区の自然保護区は, 182か所, 面積1,264万haであり, 中国の自然保護区の8.6%に及んでいる。

2. 阿尔山国家森林公园の観光施設特性

大シンアンリン山脈南西に位置する阿尔山国家森林公园は, 2000年2月22日に国家森林公园に指定され, 総面積は103,150haである。公園入場チケットは, オンシーズン180元, オフシーズン150元である⁹⁾。針葉樹と広葉樹の混合林から成り, 太平山の一部となる特爾美山は標高1,378mである。植物資源が豊富で, 代表的な植生はカラマツを中心とする針葉樹林である。園内には火山性の地形が卓越し, 火口湖の天地をはじめ, 哈拉哈川による堰止湖も多数存在し, 温泉も湧出する(図2)。火山地形の高い価値が認められ, 2017年7月5日阿尔山国家地質公園としてユネスコの世界ジオパークに登録された¹⁰⁾。

公園の入場出入口は主大門, 東北大門, 南大門の3カ所で, 観光客はここでチケットを購入し, 観光案内バスに乗り換えて園内に入場する(写真1)。主大門には数カ所に観光案内板が設置され,

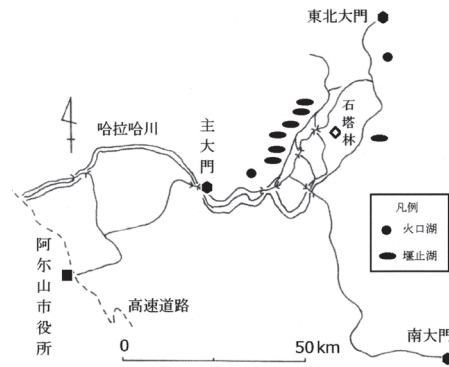


図2 内モンゴル自治区の阿爾山森林公園
(資料：森林公園資料により作成)

チケット売り場、ガイド案内、土産物店の入店するインフォメーションセンターが置かれ、Wifi設備も整備され、外国人観光客にも好評である(写真2, 3)。

石塔林は玄武岩に覆われ、約200km²にわたり溶岩台地が発達している。数千年もの風化と降雨や河川による浸食により、溶岩餅、溶岩トンネル、溶岩谷、溶岩ドームの景観が広がる。広大な中国にあって、これだけ大規模に保存と整備がなされた公園は、たいへん貴重である。地形の説明は随所に設置された案内板により、中国語と英語による説明表記があり、非常に便利である(写真4)。

園内で来訪者は整備された木道を進むため、迷うことはなく、所々に設置された案内板により、火山地形やカラマツ林の景観を快適に楽しむことができる。歩道から出られない構造のため、来訪者が大地や森林へ踏み入ることはできず、貴重な地形や植物を破壊することもない(写真5)。木道の所々には可燃性ゴミと不燃性ゴミとに分別収集する木製のゴミ箱が、周囲の景観に配慮した色や材質で作られ、設置されている。その横には万が一の出火に備えて、防火用水の入ったポリタンクも置かれ、森林火災防止への対策が施されている(写真6)。しかし、一方ではゴミ箱付近に観光客が捨てたと思われる食品の一部が散在している箇所も見られ、それを食べる野生のリスを撮影する来訪者もいた(写真7)。来訪者によるマナーの向上を図ることも、野生動物の生態系を守るためには必要であろう。

駝峰嶺天地は、湖水面標高が1,284m、東西約450m、南北約800mの広さを有する火口湖で、同公園内有数の景勝地である。形成年代は約30万年前の中期更新世とされている(写真8)。この展望台は多くの観光客が利用するため、広いスペースが確保されている。展望フロアの所々に穴を開けて、自然林を伐採することなく樹木を保護しており、景観保護にも配慮がみられる(写真9)。

Ⅲ. 吉林省から内蒙古自治区に至る農地の景観変容

1. 長春市からウランホト市にかけてのトウモロコシ栽培地域

長春市からウランホト市にかけての農地は、主に飼料用に加工される広大なトウモロコシ畑が広がる(写真10)。中国のトウモロコシ生産量は、世界の20.8%を占め、米国の34.8%に次いでいる。作付面積も85年以降増加の一途を示し、1980年の2,008.7万haから、2014年には3,712.3万haへと、この35年間に1.85倍に拡大している(図3)。国内の産地は、春播きの吉林省・黒竜江省を中心とする東北部、夏播きの河南省・山東省周辺、そして四川省・雲南省・貴州省を中心とする西南山地の3地域である。賓劍(2010)によれば、トウモロコシは古くから豚や家禽用の飼料であったが、2000年ごろからコーンスターチ、アルコールなど加工用への需要増加も増しているという。さらに

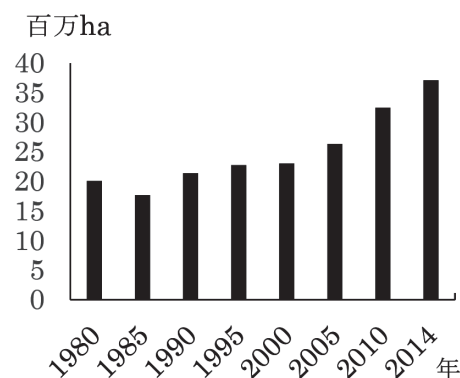


図3 中国におけるとうもろこしの作付面積
(資料：『中国統計年鑑』2015より作成)

2007年頃から国内の在庫量の減少、価格高騰により、政府が買付価格引き上げと輸出規制および加工用制限を行い、トウモロコシの増産を支援している。東北部は平坦地で良質な土壌、日照時間の長さに恵まれ、同国最大の産地である。长春市から内蒙古自治区へと向かう高速道路沿いにポプラの植林地帯が散見される。防風や自然景観を目的に退耕還林事業によって整備された景観である（写真11）。

内蒙古自治区に入り、高速道路から一般道路を走行してウランホト市付近に至ると、道路沿いに近郊農家が生産した果物を販売する出店が多くみられる。都市近郊には、都市に出荷する目的の農家が野菜や果物を生産するケースが多く、この時期は特に瓜、ブドウ、プラム等の出荷が最盛期で店頭にはたくさん瓜が並んでいた（写真12）。

2. 牧畜地域の変容

ウランホト市から西側の阿爾山市にかけては、耕作地帯から牧草地帯へと景観が一変し、丘陵地の牧草地帯に羊の群れを散見できる（写真13）。内蒙古の農業土地利用について斎藤（1964）は、牧業区、半農半牧区、農業区に区分し、牧業区はモンゴルに隣接する地域に広がる。牧業区は年間降水量約280mm前後、無霜期間120日程度で、地下水位が高く、腐植土も厚く、多くが砂質の大地で覆われるものの、植物被覆も4割程度認められる。

内蒙古自治区は3直轄市、22省、5自治区からなり、モンゴル、ロシアと4,200kmにおよぶ国境線で接し、中国全土の約1割強の面積を有している。海拔高度が約1,000mを越える高地に位置し、面積118万km²、人口約2,300万である。中国は56の民族で構成され、同自治区には多数の少数民族が居住する。内蒙古では以前より草原の退化・砂漠化による自然環境の悪化が深刻化しており、その最大要因は過放牧である。双（2002）によれば、内蒙古における改革開放政策実施前20年間の家畜頭数の増加は、同政策開始後のそれと比較すると1.5倍と大幅に上まわっている。

戦前まで内蒙古の草原は、一部裕福な特権階級による所有であったが、戦後内蒙古自治区が設立すると、自治区による草原と家畜の公有財産が牧民の所有と認められるようになった。1958年に草原と家畜が国の管理となり、人民公社による集団経営が始まった。しかし70年代に入り集団経営は解体され、78年に家畜の放牧と管理を目的に請負責任制が導入された¹¹⁾。その結果、牧民は生産額の余剰収入が増え、さらに83年から牧畜は、個別の牧民によって経営されるようになった（暢・奥山、1997）。加えて市場での畜産物の自由取引の開始により、牧民の生産意欲が向上し、家畜の頭数が増加する一方で、草原の退化や砂漠化も進んだ。関根・他（2013）の内蒙古での調査によれば、請負制度導入後に畑作の輪作体系と羊や山羊の放牧を主とする農業経営が確立されたものの、過放牧による草地劣化を招くため、97年以降原則禁止されたという。牧民の生産条件と生活条件の変化は、生活水準を向上させ、貨幣経済導入をうながし、羊の飼養頭数は増加した。その結果、草原の負荷が増し、草原再生力の低下や退化が著しい。

牧民の居住形態も変化し、シンジルト（2005）によれば、家畜請負制度が導入された頃より定住放牧様式へ移行したという。さらにネメフジャルガル（2008）によれば、土地請負政策による牧畜業税の免除の結果、牧草地の農地経営への移行、禁牧に伴う土地使用権の喪失、放牧地の耕地・林地への転換がおきたという。

2003年に「退耕還林条例」¹²⁾が施行され、内蒙古自治区では「退牧還草政策」が開始された。阿拉（2009）によれば、内蒙古では2000年頃から「禁牧」¹³⁾、「休牧」¹⁴⁾、「区輪牧畜」¹⁵⁾が実施されており、「退耕還林条例」により本格化した。「退牧還草」政策は、「禁牧」が畜舎飼育、「休牧」が半畜舎飼育、「区輪牧畜」が牧畜頭数制限、牧民行動制限管理で行われているとされる。畜舎飼育の普及による牧民の定住化は進み、牧民が居住する赤色屋根の家屋周囲には、畜舎も併設されている様子が見える（写真14）。

2007年の全草地面積の6割弱が環境政策の元で

実施され、全牧畜頭数の8割が政策に包含されている。この政策に関して鬼木ほか(2007)は、牧民に対して生産様式の大転換を図ったため、放牧面積や放牧期間の縮小、畜舎飼育期間の長期化が進んでいるという。

今回の調査で牧草地帯には大規模な有刺鉄線が施され、家畜はその範囲内で飼育されている(写真15)。持続的発展を意図して計画的に区画された牧草での区輪牧畜が、普及している。放牧されている牛は、中国在来種の黄牛と品種改良による草原紅牛が散見される。乳肉兼用種である草原紅牛は、黄牛よりも肉質が良く高値で取引されるが、性格が荒く羊との相性が悪いため、基本的に牛と羊とを同じ域内に放牧することはない。

中国の経済成長に伴う食生活の多様化は、羊肉の消費向上を促し、特に都市部での消費量が増加していった。1996年から2014年までの中国の豚、牛、羊の生産量の増加率は、羊2.37倍、牛1.94倍、豚1.8倍と羊肉の増加率が最も高く、羊の消費が増えている(図4)。双(2002)によれば市場経済化によって、統一買付・統一販売制度は廃止され、国が独占していた羊肉の集散業務が自由化されていった。代わって仲買人や専門企業による畜産物取引に参入するようになり、小売店、食堂、個人消費者への取引に関わるようになった。

94年以降、国営買付機関食品公司是、国の財政援助削減と羊肉買付競争の激化により撤退し、代わって買付業者が中心となった。出荷の際、羊はトラックで搬送される。狭いスペースに可能な限

り多くの羊を搭載して運ぶ様子が見られる(写真16)。なお牧草地帯には所々に宿泊施設を兼ねたゲルが見られ、観光客は車で宿泊施設の玄関先まで行き、この施設を利用できる(写真17)。夏季を中心に観光客はゲルでの宿泊体験をし、経営する牧民にとって貴重な収入源となっている。

IV. 卸・小売市場の機能変化

1. 卸売市場の機能変化

農産物は改革開放政策の開始により、自由市場の再開と統制緩和の実施、83年の統一買付け制度の廃止、新たな野菜生産と販売制度の改革をうながし、産地と市場は急速に拡大した。さらに85年から流通自由化が始まり、90年代初頭には国家の直接統制が廃止され、市場メカニズムが整備された(泰・宮崎, 1997)。

中国は88年から野菜、食肉、家禽、鳥卵、水産物、乳類の生鮮農産物を対象とした「菜藍子プロジェクト」を開始した(周, 1998)¹⁶⁾。同プロジェクトによる流通体系化の動きは、大規模卸売市場の登場、小売構造の改善、生産と流通の連携、出荷流通形態の再編をうながした。生鮮農産物の消費需要は、所得水準の向上による食料消費構成に影響し、穀類の消費減少と食肉・水産物消費の増加へ移行した。同時に食料消費の高級化や多様化とともに、粗重野菜消費¹⁷⁾から果実などの精細高級野菜へと志向が変化した。これは生鮮農産物消費の周年化を促進させ、都市での生鮮農産物の需要を増加させた。

周(1998)によれば、野菜の生産供給は80年代前半まで、近郊農家による生産が主で、流通自由化後は、都市遠郊からも野菜の供給が始まった。都市近郊は就業機会の増加と農地転用により野菜生産は衰退し、近郊の指定産地以外は副業的生産のため、増加する需要に対応できなかった。泰・宮崎(1997)も都市での野菜需要の拡大は、野菜産地の再編をうながし、都市近郊から遠郊へと拡大したことを指摘する。近郊の野菜生産地は、都市化の進展により、住宅地や工業用地へ転用が進

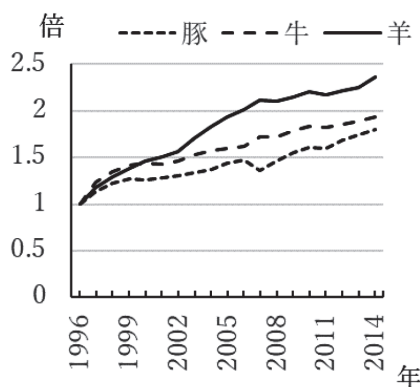


図4 肉類生産の増加率 (1996-2014年)
(資料:『中国統計年鑑』各年度版より作成)



写真1 阿尔山国家森林公园主大门
(2018年8月28日筆者撮影)



写真5 石塔林付近の木道と案内板
(2018年8月28日筆者撮影)

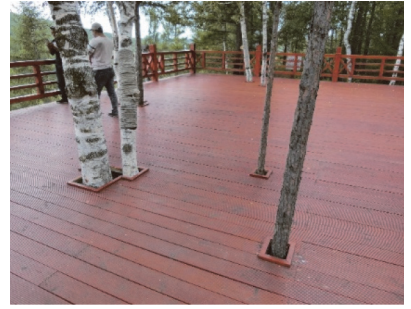


写真9 自然林を保護する駝峰岭天地の展望台
(2018年8月28日筆者撮影)



写真2 阿尔山観光ガイド案内板
(2018年8月28日筆者撮影)



写真6 ゴミ箱と防火用水の設置
(2018年8月28日筆者撮影)



写真10 大安市付近のトウモロコシ畑
(2018年8月27日筆者撮影)



写真3 インフォメーションセンター
(2018年8月28日筆者撮影)



写真7 ゴミ箱の餌を食べに来た野生のリスを撮影する観光客
(2018年8月28日筆者撮影)



写真11 高速道路沿いに植林された樹木
(2018年8月27日筆者撮影)



写真4 溶岩谷の案内板
(2018年8月28日筆者撮影)



写真8 駝峰岭天地を眺める
(2018年8月28日筆者撮影)



写真12 ウランホト市近郊の果物販売所
(2018年8月27日筆者撮影)



写真13 牧草地に放牧される羊の群れ
(2018年8月27日筆者撮影)



写真17 観光施設のゲル
(2018年8月27日筆者撮影)



写真21 松北二区市場の鍵修理店
(2018年8月30日筆者撮影)



写真14 牧民の居住する赤色屋根の家
(2018年8月29日筆者撮影)



写真18 大連北口の双興商品城市場
(2018年8月31日筆者撮影)



写真22 松北二区市場の手作り
ギョーザ販売店
(2018年8月30日筆者撮影)



写真15 有刺鉄線で囲まれた牧草を
啄む牛の群れ
(2018年8月29日筆者撮影)



写真19 双興商品城市場の海産物販
売所
(2018年8月31日筆者撮影)



写真23 松北二区市場内の中国式将棋
(2018年8月30日筆者撮影)



写真16 羊を出荷搬送中のトラック
(2018年8月29日筆者撮影)



写真20 大菜市場の農産物販売所
(2018年8月31日筆者撮影)



写真24 高速道路の片側2車線化工
事が進む内蒙古自治区
(2018年8月29日筆者撮影)

んでいるため、政府は90年以降、市内近郊野菜産地の形成、市内遠郊の補助的野菜産地の形成、市外遠隔地の野菜産地地形を支援した¹⁸⁾。

ところで李・李（2010）によれば、市場経済化は、卸売市場を成長させたという。四川省成都市に91年大規模な食肉卸売市場が開業し、中国で大規模化が始まったとされる（周，1998）。その数は、86年892から94年2,471となり、8年間に2.8倍もの増加を示した。広域流通を担う中心卸売市場と地域流通を担う地区卸売市場とに分化していった。この間、近郊産地を補完する遠郊産地が形成され、卸売市場の機能は重要度を増加させた。

一方、遠郊農地には広域生産基地が多く形成され、蔬菜生産は中国北部での栽培が増加している（周，1998）。93年時点で全国平均の蔬菜流通は30%、果実は40%程度が卸売市場を介して流通し、都市部のそれは蔬菜が58%、果実が74%とさらに高い（周，1998）。2000年から2014年までの市場の取引額の変化をみると、卸売市場は1.16兆元から8.63兆元へ、小売市場は4710.9億元から1.4兆元へと増加している（図5）。この間、卸売市場と小売市場の取引額の差は、2.47倍から6.17倍へと大きく開いており、短期間に卸売市場が成長していることがわかる。

泰・宮崎（1997）は、1986年に開設した北京市の大規模卸売市場を例に、取引は仲買人から小売業者へ、取扱野菜の種類も91年の56から94年の73へ増加したことを指摘した。ブロッコリー、レタス、エンサイが増加し、逆にそれまで多かったハ

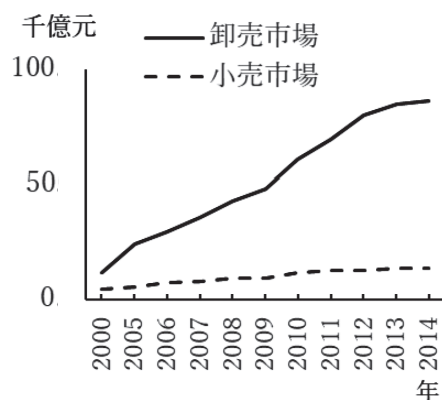


図5 市場の取引額の推移
(資料：『中国統計年鑑』各年度版より作成)

クサイ、ダイコン、ジャガイモが減少している。大都市人口の膨張による野菜需要の増大は、経済発展を背景として、野菜産地が都市近郊立地から遠隔地立地へと変化し、野菜卸売市場の集荷機能の重要性を増させるよう機能している。

2. 大連市の卸売市場とその機能

大連市は帝政ロシア時代に不凍港を利用して街の形成が始まり、現在人口591万人を有する東北部最大の港湾都市として成長している。大連駅の北側に巨大市場があり、1999年2月から双興商品城有限公司が経営している（図6）。同社は大連農産物卸売市場を含み、菜藍子プロジェクトを担っている。総面積は約138,000㎡で、大規模商品流通卸売センターである（写真18）。主な経営内容は、野菜卸売市場、果物卸売市場、小型商品卸売市場、食品卸売市場、流通センター、農業開発支援、貿易、自動車業界支援、輸出入事業を運営している。同社が運営する大連農産品センター卸売市場は、全国規模の主要卸売市場である。小売では主に野菜、果物、乾燥野菜、調味料、肉、家禽、水産物、穀物、文具、生活必需品、家庭用品、家電製品、衣類、靴、帽子等、200以上のカテゴリーの商品を扱う（写真19, 20）。他にも会場レンタル、倉庫および輸送業、植栽および育種業、不動産管理も行っている。

同社は大連港を利用して年間15万tから20万tのバナナを輸入し、東北部に流通させている¹⁹⁾。同社はバナナの輸入とリンゴの輸出の対外貿易事業により拡大を続けてきた。同市場の立地は港湾流通、鉄道、高速道路、さらには航空輸送利用による交通優位性が、巨大市場の機能を最大限に成長

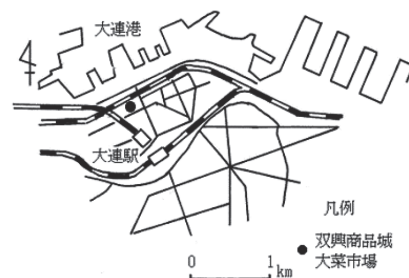


図6 大連市の双興商品城大菜市場

させたといえよう。さらに農場を4、果樹園と野菜生産の温室を80ha以上所有しており、果物や野菜の新種や新技術の導入、周辺地域の農業開発を促進する重要な役割を果たしている。今後東北部、内蒙古自治区に2次、および3次卸売業の卸売流通センターとして冷凍、加工、貯蔵機能を有する施設を展開する予定である²⁰⁾。

3. 小売市場の需要と機能

庶民の日常の消費行動を探るため、吉林市の小売市場を考察する。吉林市は吉林省の省都・長春市に次ぐ人口430万人を有する同省第2の都市である。同市中心部に位置する松北二区市場は、2014年6月に法人登録された小売市場である²¹⁾ (図7)。もちろん法人登録前から市場として古くから営業されており、取扱商品は、農水産物、肉類、各種食料品の他、衣料品、家電、スポーツ用品等、日用品全般を扱う総合市場である。商圈はおよそ徒歩30分圏内が中心で、市民の食品と日用生活必需品調達の間として賑わっている。各小売店は売り場面積によって家賃が決まる。市場管理組合は市民生活の利便性を考慮して、市場全体の業種構成のバランスに配慮して、店舗の入店や配置に関する維持管理を行っている。その業種構成の基本的考え方は、野菜、食料品、雑貨品の店舗配置が基本になっている。近年、各小売商はバイヤーから共同で製品を仕入れることが増え、市場の管理組合で発注量を決めている。

さて市場管理組合が店舗の業種構成を考慮して入店する業種を決定するのは、他にも理由がある。

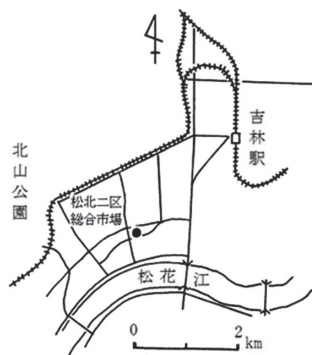


図7 吉林市の松北二区市場

中国では長らく街に立地する国営企業の「単位」による地域社会空間が生活の基本であった。しかし、80年代経済の急成長により、このシステムでは対応できなくなり、代わって「社区」が社会生活の共同体として機能し始めた。詳細については別項に譲るが、単位概念とは異なって、これまでともすれば欠落しがちであった生活困窮者、身体障害者、老人福祉サービス、製品の修理・修復、医療等あらゆる住民サービスを社区内で受け入れることを目標にしている。課題は社区でそれらの事業を自主管理・運営できるかにある。

現地での聞き取りによれば、特に最近必要とされるサービスは、鍵店、クリーニング店、介護サービス施設、児童預入施設、そして住民のトラブルを解決する居民調整委員会とされる。写真21は市場の一角に立地し、复印刻章の看板を掲げる鍵の修理店であり、必ず市場内に1店以上立地するが多い。この付近の社区居民の生活を支える重要な機能の一端を、同市場が担っていることを確認できる。

最後になったが、小売市場は今も昔も変わらぬ市民の食料品、日用品調達の間として活気ある賑わいをみせている。市場内には手作りギョーザを販売する店舗もあり、変わらぬ庶民の味を守って提供している (写真22)。

また市場の敷地には中国式将棋のコーナーもあり、市場は遊技場の機能も有している (写真23)。中国の小売市場は日々の生活必需品調達の場である。加えて時代の変化により、多くの各種サービス機能も市場には求められており、社区居民へのサービス向上に寄与している。未だ収入格差の大きい中国にあつて、廉価な食品が流通する小売市場は、飲食機能や娯楽機能も兼ね備えた庶民憩いの場であり、今後もこの賑わいは続くと思われる。

V. おわりに

本稿では吉林省から内蒙古自治区にかけて、自然保護区、農業的土地利用、および商業市場の現

状について、大連市の卸売市場と吉林市の小売市場を中心に考察した。

阿尔山国家森林公园は、ジオパークにも指定され、貴重な自然資源を保護し、観光業にも大きく貢献している。今後は公園内での来訪者の行動やマナーの向上を図る必要がある。遊牧地域も政府による管理運営は、徹底して実施されており、環境破壊の軽減に寄与すると思われる。長春—ウランホト間的高速道路は、ほぼ開通してさらに内蒙古内での工事も日々急速に進行している（写真24）。羊が草を啄む牧畜の風景が広がる草原地帯を高速道路のアスファルト道路が完成すれば、近い将来国内の移動はますます便利になるであろう。しかし、その一方で牧歌的風景が高速道路により寸断されて失われ、この地でもますます計画的な畜産業が営まれていくことは単なる時代の運命であろうか。大都市の卸売市場は、広域的な流通に対応した拠点として発達しており、それは国民生活の利便性向上に大いに貢献している。また小売市場も単位から社区へ移行することにより、生活サービス機能が向上し、今後ますます需要が増えていくと思われる。なお市場の流通機能の詳細な製品の流れや住民の消費行動については今後の課題としたい。

謝 辞

本研究は、2018年度東北学院大学共同研究助成金「研究課題：経済発展に伴う地域変容と環境破壊可能性の予測に関する国際共同研究」（研究代表者・岩動志乃夫）の成果の一部であり、その骨子の一部を2018年度東北地理学会春季学術大会にて発表した。調査の際に、東北師範大学地理学院の呉 正方教授、王 升忠教授、孟 祥君教授、宗 盛偉講師にお世話になった。厚く御礼申し上げる。

注

- 1) FAOSTAT・Forestry（2014年）による。同数値に台湾、ホンコン、マカオは含まない。
- 2) 世界初の自然保護区は、米国のイエローストーン国立公園で、市民運動により72年に開設された。

- 3) 国家環境局が環境保護の部局として国务院直属の独立機関となった。
- 4) 自然保護区制度は「中華人民共和国自然保護区条例（国务院令第167号，1994年）」に基づく。
- 5) 地方級とは省級，市級，県級を指す。
- 6) 国家級森林公園は国家林業局，その他の級の森林公園は各行政機関の林業局の承認を得る必要がある。自然保護区が行政部門を越えた内容なのに対し，森林公園は林業行政部専属の事業である。
- 7) 自然保護区は中国の陸地生態系の85%，野生動物群の85%，希少植物群落の65%を含み，希少野生動物300種以上，珍種樹木130種以上を保護している。
- 8) 『中国統計年鑑』（2015）による。
- 9) オンシーズンは5月1日から10月15日，オフシーズンは10月16日から翌年4月30日まで。
- 10) ユネスコと国際地質学連合が共同した国際協力研究事業が，地質学的遺産の保護と国際的な認定を目的として，99年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が発足した。自然保護を目的とする世界遺産（自然遺産）に対して，GGNは地質学的重要性，希少性，美しさを有する場所の認定と保護，環境教育と研究，持続可能な経済開発の場を目指している。世界のジオパークは2017年7月現在，35カ国127カ所。
- 11) 生産量，必要作業量，生産費用を設定し，目標を超えた生産を奨励するが，損失分は賠償する。
- 12) 土地耕作を放棄し，その土地を森林・草原に戻す生態環境保全政策で，農牧業税の免除，補助金制度がある。内蒙古では2000年頃から導入された。
- 13) 一定期間放牧を禁止すること。
- 14) 牧草が萌芽から結実するまでの期間は，放牧を停止すること。
- 15) 牧草地をいくつかの単位に区切り，順次牧草を替えて放牧すること。
- 16) 菜藍子プロジェクトは政府農業部により，88年に政策用語として使われた。
- 17) 主な農産物は白菜，大根，じゃがいもなど。
- 18) 産地は広東，雲南，四川，福建，広西各省の南方野菜産地，江蘇省北部の早春野菜産地，河北省の晩秋野菜産地，甘肅省の晩秋野菜産地である。

- 19) 同社HP (<http://www.ef43.com.cn/data/2014/2014-09-18/176113.html>) による (2018年12月4日閲覧)。
- 20) 前掲19。
- 21) 吉林北第二地区統合市場管理会社が運営する。

参考文献

- 阿拉坦沙 (2009) : 「退耕還林条例」下の牧畜経営の現状と課題—内蒙古自治区牧畜地域の事例分析—。農業経営研究, 47, 134-139.
- 岩動志乃夫 (2017) : 中国東北部の都市と観光地の景観変容—長春・ハルビン・長白山を事例として—。地域構想学研究教育報告, 8, 57-67.
- 鬼木俊次・加賀瓜優・余勁・根鎖 (2007) : 中国の退耕還林政策が農家経済へ及ぼす影響—陝西省・内モンゴル自治区の事例—。農業経済研究, 78, 4, 174-179.
- 金谷 治 (1997) : 「中国思想論集 (上巻) 中国古代の自然観と人間観」。平河出版者, 627頁。
- 韓 念勇・王 献溥・胡 鏡榮 (1998) : 中国の自然保護区における生態旅遊導入に対する分析と提議。「自然保護区と生態旅遊」, 1-22.
- 胡 蝶・小池正雄・姚 彤 (2007) : 中国神農架林区におけるエコツーリズムの現状—地元住民へのアンケート調査結果から—。森林計画誌, 41, 1, 31-39.
- 小長谷有紀他編, 『中国の環境政策—生態移民』, 昭和堂, 10-11.
- 齋藤辰二 (1964) : 中国西北部の牧畜—遊牧から農牧結合へ—。人文地理, 16, 275-293.
- シンジルト (2005) : 中国西部辺境と「生態移民」, 小長谷有紀・シンジルト・中尾正義編, 『中国の環境政策生態移民 地球研叢書 一翠の大地, 内モンゴルの砂漠化を防げるか—』, 昭和堂, 270-284.
- 周 応恒 (1998) : 中国における生鮮食料農産物の市場再編政策の検討—「菜藍子プロジェクト」の分析を中心に—。フードシステム研究, 5, 1, 19-35.
- 関根良平・蘇德斯琴・小金澤孝昭 (2013) : 内モン古自治区中部農村における農業経営の変容とその特性。一呼和浩特市武川県五福号村を事例に一。商学論集, 81, 4, 89-108.
- 双 喜 (2002) : 内モン古草原牧畜業の過放牧の棋院と過放牧の抑制策。農業経営研究, 40, 1, 183-186.
- 泰 瑾・宮崎 猛 (1997) : 中国における大都市野菜卸売市場の供給変動とその特徴—北京市と西安市を事例にして—。農林業問題研究, 126, 25-33.
- 田口秀実 (2007) : 中国の自然保護区における自然資源の統合管理について—森林公園等の経営事業を事例として—。林業経済, 60, 7, 1-15.
- 娜 目蘇 (2006) : 中華人民共和国における自然保護区の建設と社会・経済的拝見に関する分析。野生生物保護, 10, 1-2, 21-44.
- 暢 志軍・奥山育英 (1997) : 中国内モン古における地域開発計画の現状と課題, 14, 233-242.
- 鄭 生武 (1994) : 「中国西北地域希少・絶滅の恐れのある動物誌」。中国林業出版, 447頁。
- ネメフジャルガル (2008) : 中国の土地政策と農村土地利用に関する研究—内モン古自治区における牧草地利用を事例に一。亜細亜大学経済学論文集, 32, 59-65.
- 白 春驪 (2003) : 中国東北地方の経済事情, 地域政策研究 (高崎経済大学地域政策学会), 6-2, 71-82.
- 賓劍久敏 (2010) : 第6章中国のトウモロコシ供給・需要体制と食糧安全保障政策。清水達也編『食料危機と途上国におけるトウモロコシの需要と供給』, 107-146.
- 平田幹郎 (2007) : 中国の地域格差。地理52-4, 38-45.
- 藤田佳久 (2007) : 中国の経済発展とそれに伴う地域問題。地理52-4, 21-31.
- 楊 義申 (2003) : 改革開放以降の中国東北部都市の再編—長春市を事例として—。広島経済大学経済研究論集, 26, 1, 85-113.
- 丸山真樹 (2002) : 山西省黄土高原の自然回復—退耕還林還草事業視察報告, ワイルドライフ・フォーラム 8, 225-33.

25. 毛利和子 (1989):「中国とソ連」. 岩波書店. 219頁.
26. 羅 見今 (2001): 人定勝天に対する歴史的反思.
自然弁証法通報, 23, 5, 69-74.
27. 李 瑞雪・李 煜 (2010): 農貿市場の進化にみる中国生鮮農産品流通システムの高度化—成都聚合農産品物流センターのケースを手掛かりに—, 富山大学経済学部富大経済論集, 56, 231-256.